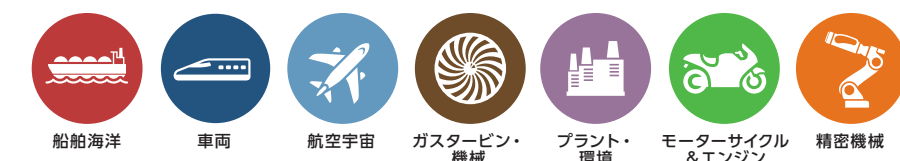


最新の技術・製品情報をお届けします



航空宇宙

ボーイング777X向け新工場を建設

川崎重工は、航空機製品の生産・組立工場である名古屋第一工場において、2015年7月にボーイング社と正式契約したボーイング777Xを製造するため、新工場建設に着手しました。

新工場は、名古屋第一工場北工場の敷地内に建設するもので、延床面積は約13,000m²、2016年12月末竣工の予定です。川崎重工は、ボーイング777Xの製造において、前部胴体、中部胴体、主脚格納部、後部圧力隔壁および貨物扉を担当し、自社製ロボットによる先進的生産設備、高性能センサーを適用した検査装置など、全社を挙げて開発した新技術を積極的に導入して自動化を推進し、効率的な生産を行います。



現在、ボーイング777型ファミリーは世界各国で運航されており、各派生型を合わせた受注機数は合計で1,500機を超えています。川崎重工は、名古屋第一工場において1992年よりボーイング777向け製品の生産を開始し、今もなお高操業を続けています。

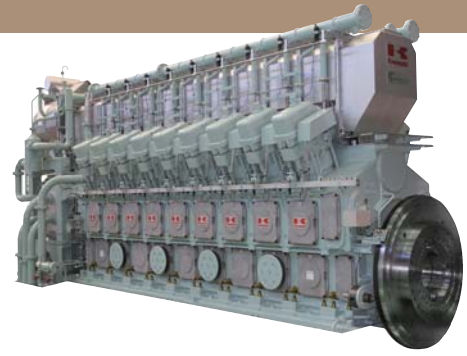
ガスタービン・機械

東京ガスエンジニアリングソリューションズ向けガスエンジンコージェネレーションシステムを受注

川崎重工は、東京ガス株式会社が100%出資する東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社より、世界最大級の地域冷暖房センターである新宿地域冷暖房センター向けに、「カワサキグリーンガスエンジン」2基からなる発電容量1.5kW級のコージェネレーションシステムを受注しました。

今回受注したシステムは、発電出力7,800kW、世界最高の発電効率を誇る自社開発の「カワサキグリーンガスエンジン」(KG-18シリーズ) 2基からなるコージェネレーションシステムで、新宿地域冷暖房センター内の地下2階に設置されます。本システムから発生する電気は新宿地域冷暖房センターおよび新宿パークタワービルへ供給され、排熱は地域冷暖房用の熱源として利用されます。川崎重工は、システムの設計、発電機器の供給および据付からなる建設工事一式を請け負い、2017年の運転開始を予定しています。

今回の受注は、「カワサキグリーンガスエンジン」が有する世界最高の発電効率および世界最高水準の低NOx排出量という経済性・環境性が高く評価されたことによるものです。



NEWS

カワサキワールド 来館者200万人を達成!

川崎重工グループの企業ミュージアムであるカワサキワールド(ゼネラルマネージャー:一万田健)は、開館以来200万人目の来館者を迎え、記念のセレモニーを開催しました。記念すべき200万人目のお客さまには、記念認定証と花束、および記念品として川崎重工が手掛けるヘリコプターのラジコン模型を贈呈しました。

カワサキワールドは、川崎重工グループの歴史や陸・海・空にわたる代表的な製品のご紹介と、地域社会や学校教育への貢献を目的に、2006年5月神戸海洋博物館内に開設されました。今後も、「見て、触れて、体感しながら『技術のすばらしさ』と『ものづくりの面白さ』を実感していただく」ことをコンセプトに、さらなる展示内容の充実をはかり、皆様に愛される企業ミュージアムを目指していきます。



■カワサキワールド概要
 所在地▷〒650-0042 兵庫県神戸市中央区波止場町2番2号
 開館時間▷午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 休館日▷毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日に休館)、年末年始(12月29日から1月3日)
 お問い合わせ▷TEL 078-327-5401
 ウェブサイト▷http://www.khi.co.jp/kawasakeworld/
 入館料▷大人600円 小人(小中学生)250円

INFORMATION

創立120周年ロゴマーク



川崎重工は、本年10月15日に創立120周年を迎えます。このロゴマークによって120年の歴史と伝統に裏付けられた『信頼の証』を表現し、これからも高度な技術を駆使した製品・サービスで社会の様々なニーズに応え、企業価値のさらなる向上に取り組んでいきます。

ガスタービン・機械

新日鉄住金エンジニアリング向け8MW級ガスタービン発電装置を受注



川崎重工は、新日鉄住金エンジニアリング株式会社より、同社が株式会社J-オイルミルズ静岡工場で実施するオンサイトエネルギー供給事業向けに、8,000kW級ガスタービン発電装置1台を受注しました。

今回受注した装置は、自社開発のガスタービン「M7A-03D」を搭載する天然ガス焚きのガスタービン発電装置で、J-オイルミルズ静岡工場に建設予定のガスタービンコージェネレーションシステムに設置されます。運用開始は2017年春頃を予定しており、発生する電気と蒸気は、工場内の動力源や熱源として利用されます。

なお、新日鉄住金エンジニアリングからは、昨年度にもJ-オイルミルズ千葉工場向けのガスタービン発電装置を受注しており、今回の受注はそれに続くものです。

川崎重工のカワサキグリーンガスタービン「M7A」シリーズは、コージェネレーションシステム分野において国内外で160台以上の納入実績があり、高い信頼を得ています。

船舶海洋

英国ヘリオット・ワット大学と自律型無人潜水機用制御システムの共同開発に着手



川崎重工は、ヘリオット・ワット大学(英国エジンバラ市)と、海底Oil&Gas分野での活用を目指す、自律型無人潜水機(AUV: Autonomous Underwater Vehicle)に搭載する制御アルゴリズムの開発のための共同研究に関する契約を締結しました。


研究期間は2015年9月から2019年8月までの4年間で、「AUVによる近距離での水中パイプラインの位置予測のための、複数センサーを使用した融合アルゴリズムの開発」をテーマに研究します。

川崎重工は、海底Oil&Gas分野における海底パイプラインのメンテナンス需要に注目しており、長年培った高度な潜水艇関連技術を開発させ、AUVの先進的要素技術の開発に取り組んでいます。本研究では、AUVが複数のセンサーを用いて海底パイプラインを自律的に認識・追跡し、土砂などに覆われた状態でも目標物を見失うことなく、至近距離から検知し続けるためのアルゴリズムの開発とシミュレーションによる実証試験を行います。

共同研究を行うヘリオット・ワット大学の海洋システム研究所は、海底Oil&Gasや再生可能エネルギー分野向け潜水艇の制御技術の研究開発における世界最先端の機関です。川崎重工は、2019年8月までの本共同研究以降、2020年度中にAUV実機を製造し、北海等で実証試験を行うことを目指しています。

車両

シンガポールLTA向け地下鉄電車72両を受注



川崎重工は、Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd. (以下KHI-SIN) および中国中車青島四方機車車両股份有限公司(以下中車四方)と共同で、シンガポールのLand Transport Authority(以下LTA、陸運庁)から地下鉄電車72両(12編成)を受注しました。

本契約の受注金額は約120億円で、川崎重工がプロジェクト全体の統括、設計、台車や主要機器の供給を行い、中車四方が完成車両の製作および工場試験、KHI-SINが車両の基地搬入や納入整備、現地試験を担当し、2018年から2019年にかけてLTAに引き渡す予定です。

これまで川崎重工は、中車四方との共同受注を含めて、LTA向けに1,300両を超える地下鉄電車の受注実績があります。今回の受注は、川崎重工の納期を守る契約履行能力、納入車両の運行実績、ならびに本入札で提案した技術・価格が総合的に評価されたものです。